

ア立の通字式見の頭番旗に差しの会報官である来休式の一つです。式Jテ日一
のケ中の公自、>冬夜会歎す精式主式が、>回合。式Jまち町ア本字式

平成 27 年度は、創立 65 周年記念事業、第 49 回東北鍼灸学会学術大会 in 仙台の開催。
また新しく、第 1 回石巻復興マラソンの救護ボランティアの要請があり協力参入するなど事業の
多い年度となりました。
年度末になってしましましたが、それらの事業の様子を取りまとめ掲載しました。



平成 28 年度の事業予定

- 4月 17 日 宮鍼会総会
- 5月 8 日 仙台ハーフマラソン救護ボランティア
- 6月 5 日 日本鍼灸師会代議員総会
- 9月 18, 19 日 第 50 回東北鍼灸学会学術大会
(福島県郡山市)
- 10月 9, 10 日第 12 回日本鍼灸師会
全国大会 in 福岡



27 年に新しく入会された方々をご紹介します



雄鹿 秀一
利府町
赤門鍼灸卒



木内 三樹
仙台市青葉区
赤門鍼灸卒



森 能行
仙台市太白区
福島柔整鍼灸卒



山田 幸
名取市
赤門鍼灸卒



高橋 はるか
仙台市太白区
赤門鍼灸卒



菅野 秀雄
石巻市
赤門鍼灸卒



会員の皆さんよろしくお願ひいたします

2015 仙台国際ハーフマラソンに参加して



今回初めてボランティアに参加させて頂きました。ハーフマラソンの現地に行く事、ボランティアをする事、様々な先生に会う事、全てが初めてで刺激の多い一日でした。ランナーの方が来るまで宮鍼会の方達に施術前の見方や証の立て方等を教えて頂きました。今回、様々な先生方と話す機会が多く、自分の中での視野が広がりました。

ボランティアで得た知識を仕事に繋げて行き、患者さんの体と痛みに向かい、少しでも早く痛みや不安を解消できる鍼灸師になりたいと思いました。そして、もっとボランティア、セミナー、勉強会に参加し知識を蓄え、人との出会いを大切にして行きたいです。

(鍼灸師 中嶋 沙会)



今回初めての参加でした。楽しみにしていた当日はマラソン日和でランナー達の盛り上がる雰囲気も感じる事が出来ました。主にアフターケアをするという事で、ランナーたちが戻るまでは先生方のお話を聞けることができ、とても有意義な時間になりました。将来についての話など気兼ねない質問にも答えて頂き刺激を受けることができました。

ハーフマラソンでの仕事は主に受付とベッドまでの案内役を行いました。受付では問診（簡単な主訴の確認）や血圧測定などをを行い、このような場で受付をする機会がなかったのでとても新鮮で楽しく行えました。ベッドまでの案内役では先生方の治療や患者さんに対する姿勢、声の掛け方や説明の仕方などわざわざですが見学する事ができました。治療法や技術の他に患者さんに対する在り方を見ることができ、本当に良かったと思います。

今回仙台ハーフマラソンのボランティアスタッフに参加して得る物が沢山ありました。今回に限らずこういったイベントがある時はまた勉強させてもらいに行きたいと思います。ありがとうございました。

(市山雅典 岩手県立高畠高等学校) (赤門鍼灸柔整専門学校 学生)

ひとめぼれマラソン (美里町)



青年部研修会:症例検討懇話会に参加して

(感想: アンケートより抜粋)

今回初めて参加させて頂きました。とてもアットホームで質問もしやすく、とても有意義な時間でした。またこのような機会があれば是非参加したいと思いました。具体的な症例に対しての考察、意見交換などの話し合いは、あまり大人数だと質問しづらかったり、話がまとまらなかったりするので、今回のような規模での勉強会だと自分としては質問しやすく、何人もの先生方の意見を聞くことが出来て、とても良かったです。

(一般鍼灸師)

準備等大変お疲れ様でした。下條先生の症例報告は、日常のきめの細かい臨床の様子が伝わる大変勉強になる報告でした。

自分もまた襟を正して患者さんと向き合おう!と思わせて頂きました。いつもありがとうございます。

症例報告については今後一人あたりの発表時間をあらかじめ決めておいた方が良いかと感じました。全体的にとても楽しく、有意義な時間でした。ありがとうございました。

(青年部会員)

まだ資格を取って間もない立場として、鍼灸師同士が意見を交わす場が沢山あるべきだと感じました。私自身も医療人として最低限のスキル、鑑別、診断が出来る事が必要だと感じました。

他の先生からの御指導がある事が、日々の臨床のモチベーションとなるので、今後もこのような機会がありましたら宜しくお願い致します。

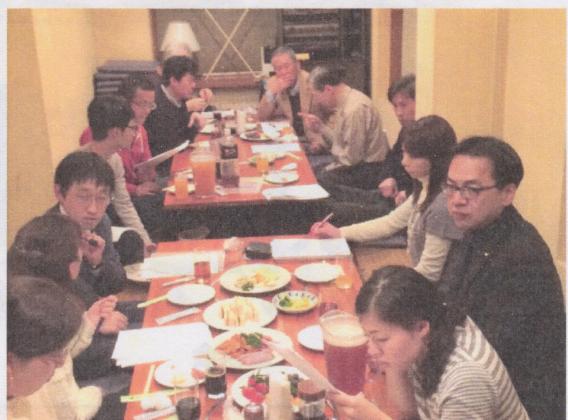
(一般鍼灸師)

二時間という時間の中で2つの症例は多く感じた。発表にあれだけ時間を取りのあれば、1例で十分(他の先生の意見や考えをもっと聞きたいかった。消化不良。)だと思った。開催して頂きありがとうございました。とても勉強になる時間でした!!

(一般鍼灸師)

二症例に対する先生方の考え方、実治療例等が伺えて、とても刺激になりました。その他下條先生の患者さまとのコミュニケーションの取り方はとても参考になりました。ありがとうございました。

(青年部会員)



「酒の席だから聞ける話もある」、堅苦しくなく、貴重なお話を聞けた良い会だと思いました。

(学生)

出席者: 17名

会員: 12名 (青年部員 6名)

一般: 4名 学生: 1名 (教員養成科)

会場: 夕焼け麦酒園 3F 個室

今回アンケートの結果、参加者全員が本日のような研修会の継続を望まれている事が分かり、定期的な開催の必要性を感じた。以後青年部主催、会員・一般鍼灸師・学生の垣根を越え、共に学び合える場を継続的に企画して行く予定であり、今後も先生方の御参加をお待ちしておりますので、宜しくお願ひ致します。(下條)

第49回東北鍼灸学会学術大会 in 仙台



開会宣言



創立65周年記念事業 公開講演



記念式典 →



第一回いしのまき復興マラソン ボランティア報告



6月28日（日）第1回いしのまき復興マラソン10kmとハーフの部が開催され参加ランナーのケアを行った。前身はシーサイド・マラソンであり名前を変えて第一回ふれあいマラソンとなったものの翌年の震災で途絶えていた。5年を経た今年、復興マラソンとして復活し、東京オリンピックで使われた聖火台が特別に貸与され話題となつたことからも大きなにぎわいを見せた。参加者は合計2800余人。前日から風雨注意報がと出されていたが風はなく時折小雨がぱらつく程度の走りやすい天気だった。

ケアの依頼があったのは6月8日。11日の理事会で準備開始となった。大会は東北ブロック会議と重なり会長と稻井副会長はブロック会議へ出席予定となっており大会は今野副会長と賀川社会奉仕部長の担当となつた。大会事務局との連絡は主に賀川、備品の用意は今野、ケア参加者の確保は二人で行った。

一般参加者は石巻駅からシャトルバス、大会関係者のみ車の乗り入れ可であったが、前日になっても駐車券が届かず「公益社団法人宮城県鍼灸師会」と告げれば通してもらえるように手配してもらった。

ケアの会場は運動公園内東はずれの会議室2階で広さは申し分ない。震災前のシーサイドマラソンでの救護所は同公園内のガレージで、そこはランナーや応援する一般人の荷物置場でもあり、ケアを待つ人は時により雨

風にさらされ、利用者の立場は考慮されていないといった印象だった。

各大会でこうした利用者無視の対応は少なからずある。そういったところはケアに携わる人たちの対応にも配慮に欠けるものが多い。いきおいそうしたところへは足が遠のくものだ。

その点我が会ではその都度利用者本位へと改善を図るよう提案してきた。このことも協力であり実績と認識している。会長を通して万端の準備を整えて貰うようお願いしたのだが第1回ということと準備期間が足りないということもあって若干の不手際あった。しかしながら大会関係者はその都度適切に対応してくれた。

会場の入り口には「マッサージ無料」と縦に大きく張り紙がしてあり同じものが建物内1階階トイレ脇の段と階段を上った2階会議室の入り口にあった。今野と話し合ってせっかくのものだが勝手に「マッサージ無料」の張り紙を剥がし「公益社団法人宮城県鍼灸会」と「はり・きゅう救護」の看板のみにさせてもらった。

開始前、受付での重要な確認事項として3つ挙げた。スタート前のケアは断る。受付で簡単なバイタルチェックと問診を行う際ここは鍼灸師会の救護所であることを強調し、必ず鍼灸診療の提案をする。ただし無理強いはしない。単なるマッサージのみは断る。結果、スタート前に訪れた足のマメには絆創膏を提供し、単なるマッサージ希望者一人はお断りした。全員が鍼灸診療受け入れ初体験の人も経験済みの人も鍼灸の素晴らしさに驚きをしめしてくれた。

痙攣、貧血を起こしたランナーもいたが適切な処置で無事終了できたことに、そして準備からいろいろ携わってくれた関係各位にお陰さまでと感謝したい。
(賀川秀眞)



第11回公益社団法人日本鍼灸師会全国大会 in 神奈川 開催

会期：10月30日、11月1日の2日間
会場：パシフィコ横浜 会議センター

当師会より西羅美流先生に症例報告で
ご登壇いただきました。

30日夜の懇親会は、マリーンルージュ
号で横浜港ディナークルーズを楽しみま
した。



理事の先生方と (右から4人目 西羅先生)



療養費適正運用化委員会



毎月、皆様からの療養費請求書を記入ミスがないかなどを確認して、各保険者の方へ発送手続きをしてくださっている方々です。

毎月200～250部の確認作業を行っています。

まだ、取り扱っていない方々も面倒がらずに取り扱ってください。

患者さんの医療費の軽減になります。

取扱い方法などでわからないところがありましたら気軽にご連絡ください。理解できるまでご指導いたします。

発行：公益社団法人宮城県鍼灸師会

981-0211 宮城県宮城郡松島町手樽字茨塙18-11

電話 022-354-2776 FAX 022-354-4495